

平成21年8月26日

各位

上場会社名 レシップ株式会社
 代表者 代表取締役社長執行役員 杉本 眞
 (コード番号 7213)
 問合せ先責任者 取締役常務執行役員 山口 芳典
 (TEL 058-323-7647)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年5月11日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	6,600	△140	△110	△85	△13.30
今回発表予想(B)	5,650	△520	△495	△425	△66.51
増減額(B-A)	△950	△380	△385	△340	
増減率(%)	△14.4	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	8,268	248	272	138	21.60

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	15,600	750	820	460	71.98
今回発表予想(B)	15,600	750	820	350	54.77
増減額(B-A)	—	—	—	△110	
増減率(%)	—	—	—	△23.9	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	16,933	1,070	1,104	521	81.61

平成22年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	6,000	△120	△75	△65	△10.17
今回発表予想(B)	5,050	△385	△345	△240	△37.56
増減額(B-A)	△950	△265	△270	△175	
増減率(%)	△15.8	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	7,379	300	343	182	28.61

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	14,500	700	800	450	70.42
今回発表予想(B)	14,500	700	800	450	70.42
増減額(B-A)	—	—	—	—	
増減率(%)	—	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	15,313	1,107	1,163	393	61.53

修正の理由

(1)連結

第2四半期累計期間につきましては、輸送機器事業では主力のバス市場向け製品の納入が、総じて第3四半期以降にずれ込んだこと、また、前回発表時には見込んでおりませんでした新規の物件が追加発生いたしましたことなどにより、同事業の売上高は、第3四半期以降に第2四半期までの落ち込みをカバーできる見込みとなりました。また、S&D事業にお

きましては、平成21年5月20に開示いたしましたとおり、同事業の営業赤字の改善のため、米国子会社LECIPI U.S.A.,INC.における米国向けネオン変圧器ビジネスを終結いたしました。また、拡販を図っておりましたLED電源が、国内での環境対応への関心の高まりにより、第3四半期以降大きく伸長する見込みとなり、米国向けネオン変圧器ビジネスの落ち込みをカバーできる見込みとなりました。

一方で産業機器事業におきましては、主力のバッテリー式フォークリフト用充電器の販売が、経済環境の悪化を受けた産業用車両の減産の影響により低迷し、同事業の売上高は当初予想を下回るものと見込まれます。

以上の様な結果、売上高は第2四半期累計期間におきましては、前回発表予想を下回りますものの、通期では前回発表予想数値を確保できるものと見込んでおります。

また、損益に関しましては、第2四半期累計期間におきましては、売上高の減少に伴い利益も前回発表予想数値を下回るものと予想しております。併せて、本日発表しております「子会社の解散および特別損失計上に関するお知らせ」のとおり、当社の連結子会社であるTHAI LECIP CORPORATION LIMITED の解散に伴う特別損失を計上いたしますことなどから、四半期純利益、当期純利益ともに該当分の影響を受けることとなります。

また、通期の損益におきましては、売上高が前回発表予想数値を確保できる見込みであり、営業利益、経常利益につきましては、前回発表予想数値としておりますが、当期純利益につきましては、上記の特別損失の影響を受けますため、該当分の減少額を織り込んでおります。

(2)個別

第2四半期累計期間個別業績予想数値は、連結業績予想の修正と同様の理由によるものでありますが、通期個別業績予想数値は前回発表予想数値から変更していません。これは売上高が前回発表予想数値を確保できるため、営業利益、経常利益ともに前回発表予想数値が見込めることと併せ、本日発表しております「子会社の解散および特別損失計上に関するお知らせ」の「4. 業績に与える影響」の「個別」に記載いたしましたとおり、関係会社株式評価損として164百万円を計上する一方で、解散の意志決定に伴う繰延税金資産を138百万円計上(法人税等調整額は同額減少)する見込みでありますため、当期純利益に及ぼす影響は軽微であると判断したことによるものです。

(注)上記の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上